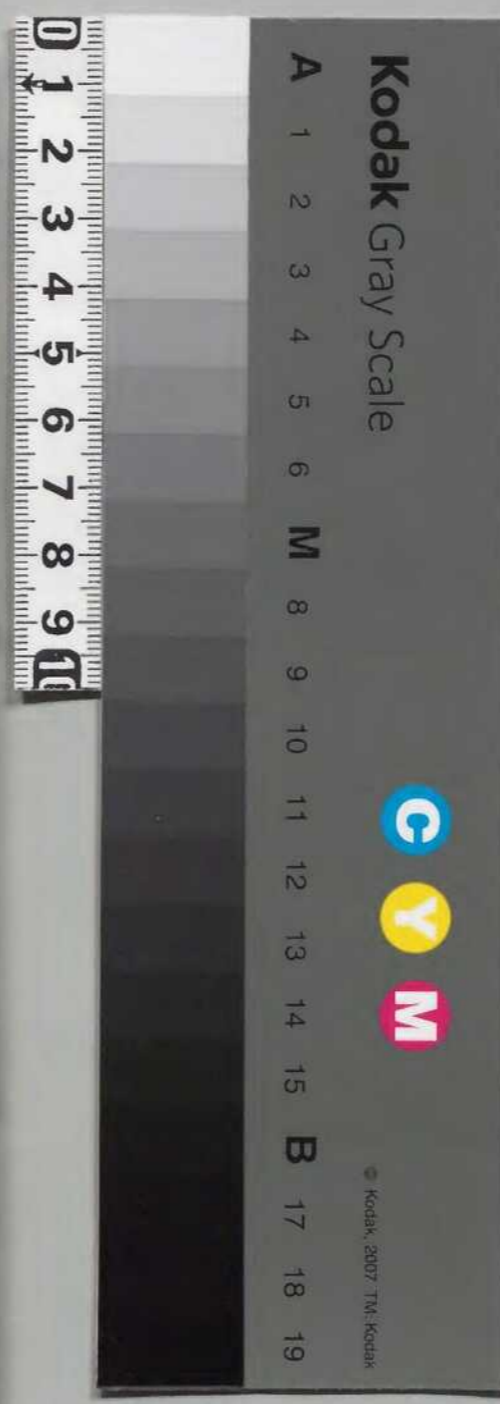
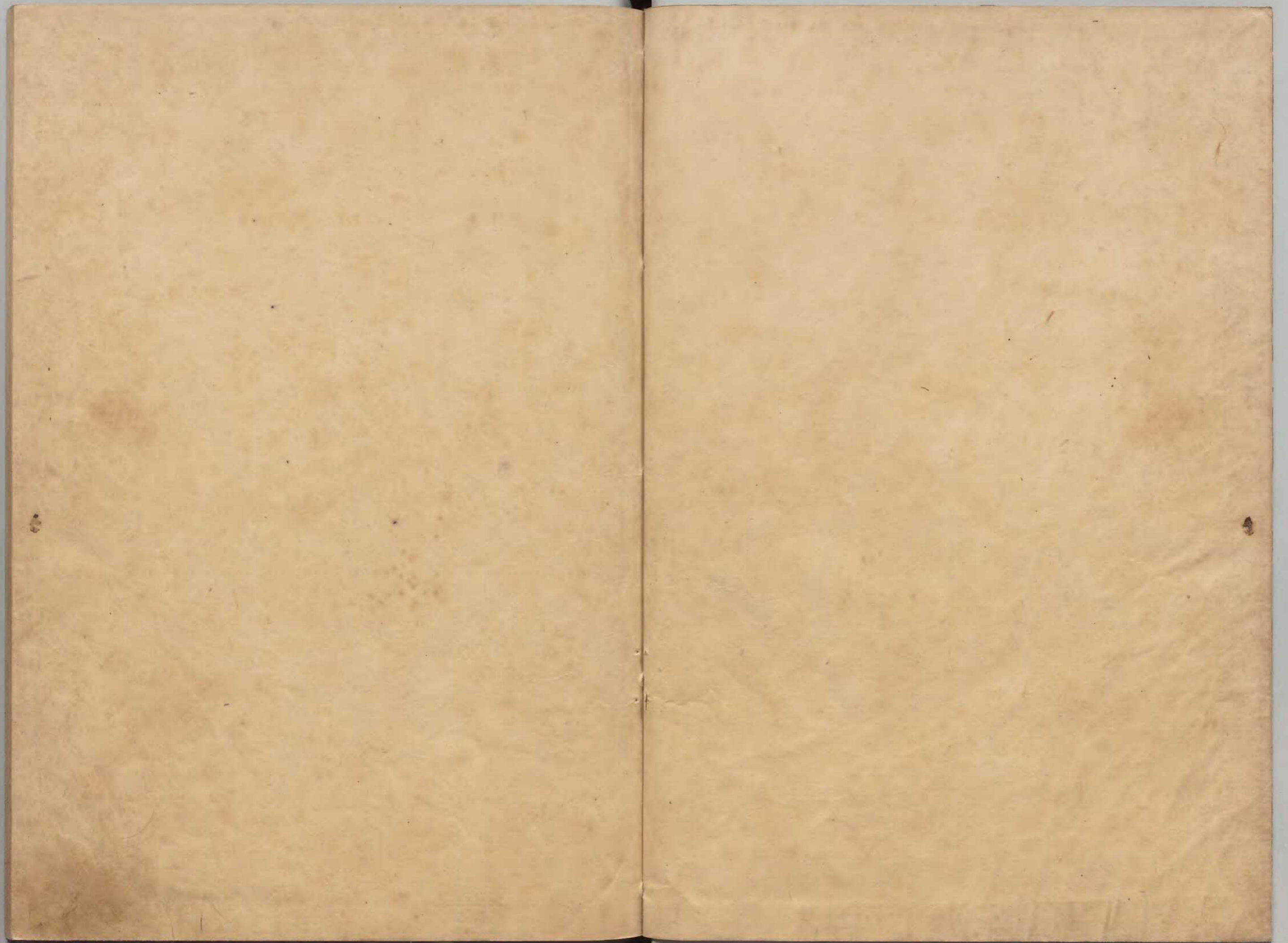


寛永諸家譜

越智氏
二卷之内

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186(150)
函號	特 76 1





一柳

久留瀬

寛永流家系書傳

越智姓

一柳

中河野氏ならぬ改一柳

淺草文庫

人徳七代
孝靈天皇

律ハ大日中根子友太瓊 孝安帝元太子

ならぬ母は押媛と云ふ

治世七十六年壽百八

伊豫皇子

律新獲海島

母は皇名細姫命

磯城大目乃女

孝靈弟この皇女あり

其は南蠻の戎動の増起せしむる時

けしき伊豫國よりうつり名を南

瀛屏將軍と号し一吊と名を

宣下せしむる伊豫皇子と名

小千御子

母は和氣姫海童の女たり

七歳まで勅と名をり京都のから西別を

こるり油國をへ小千御子位と是る

より小千御子と号し律と名をり

天授貫

天授女

栗鹿

三並

は時中^{たけなかつ}船^{ふね}より新羅國^{しらわこく}と征^{せい}せん
て大將^{たいしやう}十人^{じゅうにん}をつりまゐる其時^{そのとき}之並^{このなみ}は身^み
こ乃大將^{このおおしやう}なり和^わとの倭^{やまと}とまゐる
身^みぬりし属^{しよく}とて海^{うみ}船^{ふね}と

惣長

伊佐馬

居^い所^{ところ}よめ^{よめ}の^の名^なと

長守

高繩

高集

勝海

久米丸

百里

百男

益躬

欽^{きん}明^{めい}の御^ご宇^う禰^ね乃^の國^{くに}目^め也^{なり}
府^ふ中^{ちゆう}樹^{じゆ}下^か押^{おし}領^{りやう}使^しと号^{ごう}と今^{いま}乃^の鴨^鴨
部^べ大^{だい}的^{てき}休^{きゆう}是^{なり}
推^ま古^こ天^{てん}皇^{こう}の御^ご宇^う三^{さん}韓^{かん}より我^{われ}人^{ひと}
八^{はち}千^{せん}人^{にん}族^{しやく}人^{にん}と大^{だい}將^{しやう}とを〜と勢^{せい}ひ

多^{おほ}り人^{にん}と粮^{りやう}食^{じき}と是^{なり}よ〜り〜九^く列^{りつ}
の兵^{へい}士^しやせ〜とあ〜と申^{まを}五^ご田^{でん}國^{こく}
よせめのかつ益^{えき}躬^{こう}了^{りやう}藝^ぎの達^{たつ}老^{らう}武^ぶ略^{りやく}
の名^な譽^よなり且^{かつ}夫^そ款^{くわん}退^{たい}治^ち先^{せん}例^{れい}あり
ぬ〜勅^{しやく}命^{めい}と〜ぬり智^ち謀^{ぼう}とあり
て幡^{ばん}磨^ま圓^{えん}的^{てき}石^{せき}の海^{かい}蟹^{さい}坂^{さか}よ〜り〜
族^{しやく}人^{にん}と射^い落^{らく}と益^{えき}躬^{こう}の家^け人^{にん}おは格^{かく}
を頭^{かぶ}と〜り〜

玉澄

實の玉具の才澄一は純一は家
宇麻大領樹下大神是より見玉
具より進跡と為家とほぐ
捕徳天皇の御宇右宰相武廣嗣
謀叛の時勅命とて御り鎮西に馳
向ひ居りし進討して軍名と為ら
靈龜二子姓字と為り越智と為り

益男

因安郡司と号と

實勝

西条館と号と 實一は真一は

深躬

兼原館と号と 深一は洋一は

息村いそむら

栗村館くりむらと号なづと

息利いそり

樹下押領使じゆげおしりやうしと号なづと

息方いそかた

大井館おおいのと号なづと

好方こうかた

越智郡押領使おちのと号なづと

朱雀院すざくえんの湯ゆ宇う天あま意い二年にふたとし純まこと友とも送まわ心こころ

沢さわ々々はは々々九く別べつと押領おしりやうと羽は敵てき返かへ

治ちの事こと先まづ例れいと号なづと

倫命りんめいと号なづと赤地あかぢの錦にしき乃すなは鏡かがみい

新あらた水みづ又また海うみと号なづと海うみと乃すなは葉は

新水あらたみづ又また海うみと号なづと海うみと乃すなは葉は

内若船軍の達士なり好方勅汗
とて同様にさす所之百餘艘
と僅供とく丸形に池向ひ遊居と
遊河——たらまら成名とあ
り寂感とくあ

好拳

河野押領使と号し或野万乃大
領使と号す

安國

安躬

風早大領と号し
長多那司と号し

久良

温泉那司と号し

安家

久米権介と号し
安一と元と号し

家時 いえとき

和久夫と号す

為世 いよよ

浮穴銀と号す

漢天皇后十の皇子なり家時が

婿となりて家法はなす

越智よりあつて仍代と号す友乃

坂五位と号す

為時 いよよ

浮穴四郎大と号す

時言 ときご

浮穴新大と号す

孝と号す

為洞なりほら

風早大領伊豫掾いよのそとと号す

親孝ちんこう

勅額と号り山部大友氏の母也
号す親孝ちんこうと号す

親経ちんけい

河野新大友又氏乃忠若と号す
業所堂と号す
八所と号す
入道親義伊豫掾いよのそとと号す
ありて嗣子なり
二海印親清ちんせいと号す
家法はが
伊豫掾いよのそとと号す

親清 ちかきよ

河野冠名 伊豫持分とありし
伊豫入道頼義の四男たりし頼義より
赤地の錦の直密鎧白旗等とお授
平治二年は白河院の法寧宣旨を
承く伊豫の国務職に任じ

通清 ちかきよ

河野新太又後伊豫持分を号し
母は親姫の女
親清母子を以て故に妻伊豫國之
の宮より冬終るに時密通乃儀
ありおらして之時に懐胎して通清
とて名取し通乃字と名乗りし

治承年中伊豫乃国務職に任じ
備中国佐人奴可入道西寂備後

通信

河野の浦ら兵船十艘とお催し
言繩の城へてあせ通信を討取

河野の浦ら兵船十艘とお催し
奴可入道お寂よ言繩の城よとひく
生狗着く切る幕の段よと一靴
先祖之並夷敵と征する時異國
とひく似る段あるとひく

河野の船は折交を角邊よとみ
船えりきりきりげほくくく海
水へ移り三文字とあつす
河野第一乃軍利とけく海船と
いふり幕乃段よ是段りらゆ
三文字波乃とつるよとひく
乃ゆへり清は三文字也 若松
と建
貞徳二年五月十日辛と水

六十八東輝方と号す

通久

河野九郎は号と号す母は時政女
義久年中乃告乱一関東方れ討
つて大將とありと号して宇治河
乃先陣と号とあり阿波乃國
富田乃唐法寺と号す好河と号す
伊豫國久米郡石井に法寺あり

通继

河野清左郎 母は之右衛門の女
義人と号す後と野少小伝と

通有

六郎 對馬守と号す
後宇多院の四子弘安四年乙未
より豊前守と号す大軍志願齋能

右等の海岸に元海と夷賊逐治の
事先例の故勅命とありゆり
大將軍とたのむに執前回に馳向ひ
伯父伯耆守通時と通有と二艘敵
の中は紛入大將一人を捕敵船
放火と伯耆守成とありゆり船中
とひく死と通有とありゆり
ゆり豫別とゆり蒙古の頸成通有
家人久万海右郎成後系終とありゆり

け時の忠意とありて肥前國津崎乃庄
の月小崎に同加納下東とありゆり
日又同庄館跡日荒野肥後とありゆり
村とありゆり伊豫國山崎の庄とありゆり
たも海陸七十館度の合戦あり
毎夜軍忠とありゆり感賞乃官旨とありゆり

徳治年中西國よりひく海賊船を
の河内東より以教書とありゆり

賊黨と通ずる

通治

九郎良馬母は通久の女 後通盛

あつこ

元弘年中あはれ六波羅合戦の時勲

功あつこ

だまら時時の勅許とす

對馬守とす伊佐られ伊藤國司とす

高良の氏將軍とす一とす

合戦とす功名とす

月之守とす又伊藤國司とす

とす周坊とす伊佐とす善應寺とす

通朝

六郎 通朝とす

細川頼之とす河田の城とす

戦し討死

通亮

六郎 濱波守一 但ど後刑部左衛門
通亮 改じ徳王丸海居彦と号じ
細川本將守國中 攻入通亮を
殺し國人送しある通亮國中
逃りて孫前圓一 おのこし宰相
了りしに 征夷大將軍吏部親王

よまみゆけ刑部左衛門通亮とあり
心腹圓一 守りしに 又細川本將守
殺し右軍の城し 討死

通能

畠中に通義とあり 飛王丸河野伊藤

通久

刑部左衛門 刑部左衛門 守留者母と号し

通忠

通宣

通宣

刑了を物

孫正少弼

宣高

一御在部中萬村 俊小刑了を物と稱す
豫列の人なり 信名津孫
大永年中父通正死し家督を承りて
豫列に位せしと濃列厚見郡

一とらぬ野村法郎とけつりし
甲子の父の氏とありにんじとあり
ある河濃列七波の部目一陽一
くまのいしとありとあり七波氏宣
一陽一とありとあり我とあり
よあつとありとありとあり一
の列とありとあり宣とあり
ていしとありとあり野村とあり
らといしとあり今家とありとあり

くろがし先能とあしんも
ろつたり祿ぐくは一氏と授る
と波辭とてゆふに宮の是
ゆやまふある可古波氏踏鞠乃遊
るに宮を拓の應とて踏鞠の
庭よとり又河野氏とあしん
とてゆふとてゆふとてゆふ
河野の姓とあしにめて更よ是
くい氏とてゆふとてゆふとて
庭あし

みさし柳橋松楓と極く其具
るに姑と志れども一柳の簾文
とてゆふとてゆふとてゆふ
とてゆふとてゆふとてゆふ
えんていも今より一柳とて
我家へゆふとてゆふとて
号是とてゆふとてゆふ

忠高

又尾門尉 生國義濃厚見郡
父の跡と相つゝ大領と

天正八年七月二日に死に歳五十七

二法名香林宗梅

忠末

市助 後、後五位下に叙し伊豆守

一、但馬守 生國同前

父の跡と相つゝ大領と秀吉より

此之を賞儀七人れ教へ列し

濃河守見れ城とたまひりて六百石

と領といしゆり七人中の一人也

大坂令七尾門尉一柳市助同任を管尉

尾府基石門尉神見田守也馬門尉小野

本清次郎なり

天正十八年秀吉東征して小田原乃

城をかすしとて進東とありて先陣
 としとていふに、いふに、いふに、
 斬て入りやあり
 同年二月廿九日中乃城了
 としとて討死とて歳年五 法名
 天波伝運

正盛

田部七郎尉

生國同前

進東の身なり進東卒とて尾列
 田の城二万石の地とてなす
 天正十九年十一月廿八日辰丑位下
 一叙一監物一付と
 同二十年正月十一日丑子石とて増
 一叙一
 孝長丑子石田治部少輔之威陰謀
 とてわらわら國家の持とてむじらんや
 志とていふとて使とつかり

上秋系勝と誘引さく申五ノ報也

東照大権現東のかゝ系勝とうら始

ふ時在盛是とゆ

大権現ノ属一申一七月廿

黒田の城より本着路と仰しく同十

六上野の園之傍より赴丹伊

信長小邊信長を忠と感一貞宗

の勝劔とあり野列宇都文了

よりて三成が報送致さくく右り

惣一七位奉此法候しりく小

心しりり

大権現ノ湯一たたくしりり

列候等ニ成証候の旨と受け給

りりて若小しとお在盛もさし志ら

八月九日在盛黒田乃城一海り時り

三成ひりり法謀の旨書とつり

在盛いりりこころ

同月下尾列法謀一赴福徳長為文

井伊侍従池田三左衛門尉中務
右衛門尉馬玄蕃以內對馬守洗將
爲こ相違て何うしき奇計とせら
聖朝洗將儀とていし池田三左衛門尉
とゆへに前鋒とてし次は城尾
信濃守とて次は御監物とてし
とんとり時し至聖殿とてし
又洗將爲儀とていし池田三左衛門尉
伊予守とて本番川のことら軍兵

と後へし至聖川本番川の下に軍
兵とていしとていしとていし
かきとていしとていしとていし
とていしとていしとていし
軍兵と後へし本番川の先陣とていし
すみ親とていしとていしとていし
又是とていしとていしとていし
とていしとていしとていし
終り川守の町とていしとていし

同女守之成、家臣拓原義忠等も
戦く大、勝又進て瑞龍寺に拓原
とせむ拓原ハ拓原氏より乃地
かり波阜落て後徳将と進く
善野原より陣とら同女守
大権現の台命よりして井伊徳将
多中務を物守守史とて松
の城よりして一、事し、波
せざる、中務を物守将と儀とてい

長松城よりして一人者は行、五
一人よりあり徳将同儀、五
波城とち、し、家、し、ひ、五
再之辞、し、し、け、し、し、徳将も
又是と強、し、し、し、し、五
して長松城、し、し、し、し、五
了、石田之成、福原志馬助、人、し、
て長松の城、し、し、し、し、し、五
し、し、家、し、し、し、し、し、五

他國よりある者ありは是れと云ふ
一町大垣よりある者ありは是れ
もも四人と云ふは是れと云ふ
大垣の奇斗と同くは是れと云ふ
ちも今度此軍功より云ふ
大権現より御書より四人よは
いふ中四人の者業は後守田中
兵部左衛門黒田甲斐守一柳監物又
大権現陣と云ふは是れと云ふ

あつらひ

大権現より湯より進進といふ
つねに觸瀝と飲と軍功と感と云ふ
是等に昔のいふまゝ今交河
より先陣といふは是れと云ふ
とせのやがら又長松の城と守る其
軍忠あはれと云ふは是れと云ふ
かゝりけりしに磨費に成る又
大権現伏見に赴給ふ時 あり

しりて代々の次第あり其一番乃
前迄福徳なるを正則其次も
一御監地を造り伏見に
大権現より一万余石と加増し
より五万石に成り黒田の城と
て勝別神戸の城と給ふ
享徳十五年

大権現尾別名護国_ヤの城と築給_ハ納_ル
命よりしりて造り重名護国_ヤ

しりて云役とつとむ

同十六年伯列しりし中林一見

り居城より加番しりし二

大坂西度陣しりし

元和二年六月

台徳院殿の時の代

同五年五月

台徳院殿の時の代

しりて

同六年大坂の城を築にまゝ

台命たいめいしりて大坂おおいさかしりて
公役くやくとほむ

同八年四月

台徳院殿日光たいとくゐん じやうにっこう（以系信えいしん）の時とき以信いしん

同九年六月

台徳院殿入洛たいとくゐん にしやくの時とき以信いしん

寛永二年七月

將軍家日光しやうぐん じやうにっこう（以系信えいしん）の時とき以信いしん

同二年六月

台徳院殿入洛たいとくゐん にしやくの時とき以信いしん

同四年四月

台徳院殿日光たいとくゐん じやうにっこう（以系信えいしん）の時とき以信いしん

同六年四月

將軍家日光しやうぐん じやうにっこう（以系信えいしん）の時とき以信いしん

同九年四月今市いまいちしりて 海防かいぼうに

暇ひま忘わすしりて 海防かいぼうに

至徳しとく八月はつげつ日光じやうにっこうしりて

同十年二月廿一日 台命よらりて
志別香羽城よりいしりる後と

同十一年

將軍家以上の海軍時よりいしりる

伊之代以上の海軍の時石軍師の事
に
いしりる海軍とを敵とせば良にま
物よふくあり

寛永十二年九月 約命とあしり

江戸城外の石垣とまうくもいしり

石余之事 六百金

同年六月一日 六百石に成加増し

終り新戸の地と増して強別より

いしりる六百八十石の地とにまう

は内一万石に増別加東にあり其

解の強別新居に宇麻郡同安郡

同年八月十九日強別より赴河海軍大

坂よりいしりる病よかりて卒と

歳七十の多室候 石名忠兵衛

寛永二年七月

將軍家日光^と以^て奉^つ清^の時社^と奉^つす

同二年六月

台徳院殿^に清^の時社^と奉^つす

同五年四月

台徳院殿^に日光^の社^と奉^つす

同六年四月

同九年四月

將軍家日光^の社^と奉^つす

同九年

大権現十七回^の時社^と奉^つす

將軍家^に日光^の社^と奉^つす

日光^の社^と奉^つす

同十一年六月

將軍家^に日光^の社^と奉^つす

同十二年

將軍家^に日光^の社^と奉^つす

日光^の社^と奉^つす

社あり

同年十一月女官父此正領縁別

新居郡宇麻郡月妻郡二百石の

地味

同十七年四月

將軍家日光御新領の時正重病氣

了りて母子たを悲具成り

日光山へ一氣信せしむ

同年七月生駒を夜中下り領あり

正家

ふくやま 台命とかりあり
松の城へ了りて吉後と

養作 生國田あり

是も七十年後存りしり

わて

大権現へ湯へある御座いしり

台徳院殿へすみえしり

町一七歳に年一一人賃とあり
て江戸一信と

名徳院殿一り八十余人の賑資とた

まゝ

同十甲子辰五信下子叙一義作也

一信と

大坂あ度信陣一信と

元和元年一信と

將軍家一信と

寛永二年六月

名徳院殿一り入信の時一信と

同十一年六月

將軍家一信と

列一

同十二年六月朔一信と

六百名余と信と

一信と

一信と

同年八月父卒と十一月女阿日父
の正領二万二千石の地となす
播磨の内加東郡福列の内宇麻
郡因安郡勢々二萬八千六百石
余領領と

日十七年四月

將軍家日光寺社奉の町並家奉
給と

直頼

秀人勢列神戸の城一と
大坂西陣のつらと

大権現

台徳院殿上湯
湯之を竊人獲とありて江戸あり
あり

元和四年六月

台徳院殿

將軍家へ一揚ちやう一きり〜まり

將軍家へ一たの交ま〜に臣しんを

ある〜に候まり

寛永十二年八月又卒し

同年十一月女に御ご縁ゆかり別わか別わか新居郡

同安郡ごんあん一ごん万まん石せきの地をにまり

臣しん具ぐ

臣しん具ぐ 臣しん國くに國くにの

寛永十二年十一月朔しつげつのに〜めて

將軍家へ一まみえを〜まり

臣しん照てう

臣しん照てう 臣しん國くに國くにの

寛永十二年十一月朔しつげつのに〜めて

將軍家へ一まり〜まり

家の級いへ
丸の印いん
釘かぎ接つぎえいのの文字あざな

久留徳くろしほ

河野の流くわのより通とほ荒あらいよりこと乃
系けい譜ふ久留徳一柳いちりゅうあ家のあけ中ちゆうとあり
てきふひてきふひ考かんく詳しやうく一柳
氏うぢの下したふふを載のり

●通荒とほあらい

一本いっぴんノ荒あらいと並ならぶぶ徳とく五ご九く河野くわの六む郎らう

浄居菴と稱す

通義

九郎 刑部左衛門

兼伊豫守

龜王丸

義海將軍より律の字より一命

應永元年八月某日よりひく病死

通久

刑部左衛門

義教將軍九郎大友近守の四教書

と云ふ所防別大内とお保て

九郎池心山姫嶽よりひく病死

通五

刑部左衛門

好富善女と号す

通室とらふ

刑部大権

通直とらふ

河野弾正少弼の だんじょうのすけのみつね

男子二人女子二人あり嫡男ちやくなん通直とらふ父

と名和のこゝあり〜逐つひよらるらる者もの

と

贈通くわん とらふ

通室とらふ

通直とらふ

河野四郎 母は完戸くわんこ氏うぢが女むすめ小こ子こ川がわ

澄あき系けいの娘むすめらり

天正年中秀吉ひでよし治世ちせいの〜氏うぢ福壽ふくじゆ

たまたま伊豫國と銘と通直小川
隆景が物とてしりしりして福列
とらへ安藝國へ赴て平藏
とて死に子と死しりしりしりしり
河野氏断絶

通康

村とたまたま河野彈正少弼が婿なり

家の紋丸の内と文字先祖は信
濃村とるり浪人なる河流落とる
伊豫國へ赴河野氏へ依り
累代家老とるり教度乃忠良
あり強心子郎といふげなり志
て五昧をり乞しりしりしりしり
通康とりしりしりしりしり
乃し側り家の旗と文字の紋
河野家の系書と記とてお渡り

是よりして通康河野の家と繼
伊豫國郡内表合戦乃河通康通在
代々お陣し公作國の兵
も初戦よりあ度軍功は終る
同國府中八河よりしひく重見
と合戦の時通康と河野系は系
も終戦合くた系と撃つるは時
系系終るも河通康は実を以
今より通康が恙とらとらわは鏡

あり

同國野同郡を筒村よりしひく
右河内歌のよめに撃つるは
通康とみやより池合其歌と折
右河内より首級おとす
同國よりしひく松本之河守無城
の時通康其城の背を圍ふは
其とき終戦合を刀と指く大
より勇名は城より通康が家人

も又名成坊の老行り
同国石城合戦の通康勇名と
あらりし家人も戦功あり
同国宇加徳合戦の首勇と行り
敵陣に馳入軍功あり
陶道表を討え就と執列にせめて
もくも流城は落しとあらざるを
し台田の二城をりえ就も容せん
と使と縁列にけりしとて加勝

と通康より通康も流城あり
是と取討りし道表を討り陣を
え就通康も流城をきしと長中
小じうのりし文徳の陣に入り道表を
討ええ就其恩と報せんとのあし夫代
將一百六十子其の地と通康も授通表
暗通父子合戦の時通康も通表を
属しと通表もよとにり容せんとする
時通康もと跡通表も負て得ん

音清

と感^んじて其^の終^つとこらん^ともす^もく
とこ^も子^もた^もい^もり^もて^も終^つ

村^の久^き忠^{ちゆう}

け^のは^は思^し回^{わい}飛^ひ前^{ぜん}香^{かう}に^に居^い一^{いつ}又^{また}
福^{ふく}清^{しやう}は^は文^{ぶん}と^と志^しと^とび^び好^{こう}し^し紀^き伊^い
新^{しん}室^{しつ}つ^つふ^ふ戦^{せん}場^{ばう}よ^よと^とひ^ひて^て教^{きやう}度^ど
の^の勇^{ゆう}名^なは^は何^{なに}ら^らり

寛永十五^の年^{ねん}の^の七^{しち}十^{じゅう}六^{ろく}の^の日^{にち}

病^{びやう}死^し

通久

村^の久^き忠^{ちゆう}

病^{びやう}死^し

女子

毛^け利^り元^{げん}清^{しやう}の^の妻^{めかけ} 甲^{こう}斐^ひ守^{しゅ}母^ぼ

女子

能^の將^{しやう}掃^{そう}部^ぶ以^いの^の妻^{めかけ}

某

甲世

某

甲世

通総

村と助吉

後、来鴻お雲守也

あつと

黒田執事守と頼く秀吉

に、あつと頼く伊豫五来鴻

位とらと頼く秀吉に

来鴻と頼く其名は

来鴻お雲守と頼く

文禄元年位五位下に叙一福列

風早郡一万石を領し、以編令

以来市と頼く其先、源姓秀吉

忠臣氏と頼く故、以編令

忠臣氏と頼く家の故、以編令

側打、後編之文字、れ故、を頼く

家の改改軍配圖扇少

統業陣の時通信戦功あり秀吉

これを感じて朱中ときと成り

今勝坂法法寺下成り

小田原陣の時秀吉通信

舟軍の先鋒とるこし朱中こ

れあり朝鮮陣の良秀吉朱中

兵船とつこころ大崎人海國南原

城と保時通信城とめらりてせめ戦

し首田百六十一と成り秀吉感

羨とて朱中成にす

羽籠蔚とてとびく大崎人階起

と通信甚しとるは是とせめ款

無と破て首級と成り

秀吉元年羽籠水菅浦とてひく

通信書船とてとて款と討死

歳と千六唐親とて是成り

同六年

大権現唐親とて伊豫玉とあらし
のきえは五日回次珠連見ま之部
の四一五回ふると領しし
同十七年一病死ひ歳二年一

女子二人

久留丹波守た許りあり

通春

久留丹波守

享長十七年

大権現

名徳院殿の鈔命えんふりて通春六歳
のやま、唐親やまが造つりて領しむ
名徳院殿な伊集原い氏し國くに光みつ元げん脚あし指さし師し
段だんの伊い集し原げん氏し

享長十九年大坂陣おのおやま

病氣びやうきおらへく國くにふらり無な事こと成なり

初はつくあ伊陣いじんとははも

元和げんわ元子げんし京師きやうしあ

大控現

台徳院たいとくゑん殿のりお湯ゆ〜

同二年どうにねん日徳にっとくの字あざな成なりた

久留くろう將しょう少しょう書しよ

寛永かんえい二年

台徳院たいとくゑん殿のり釣つり命いのちに〜

〜叙しよ〜以い編へん旨しよあり

同十四年どうじゅうしよねん肥前ひぜん國くに將しょう原はらに〜

吾利ごり交かう丹たん轉てん赴しよの河か小せう笠かさ原はらを渡わたり

〜將しょう原はらの地ちを書しよ〜

通信つうしん

久留くろう將しょう台たい松しょう

寛永かんえい十二年

將軍しょうん家けにすみえ〜

通貞とほさだ

久留將玄壽くるとしげのちか

公家こうけ

公家こうけ

康親やすちか

段凡の内唐園府通春だんぼつの内とうえんぷつとほはる

乃々あつためて三唐園府なつあつためてさんとうえんぷつ

